

[巻末付録]

1. 草津ブランド創設事業検討委員会提言書の概要

この提言書は、2008年度初めから2009年度末にかけて、「草津ブランド」創設へ向けて立命館大学、地域事業者、コンサル、草津市で構成された検討委員会により作成されたものである。主な内容としては、次の通りである。

1. 2 草津市に関する認知度調査（提言書）

草津市に関する認知度調査においての最大の課題は、草津温泉との混同である。草津市の所在地についての質問において、東京23区では回答者100名中62名が群馬県と答え、大阪でも回答者の1/6が同様の誤認をしている。また、草津市に対するイメージとして「山の中のまち」「観光地」など誤ったイメージを持たれていた。草津市について正確に認知されていないことが伺える。

1. 3 市民意識調査（提言書）

第5次草津市総合計画策定に向けての市民意識調査（2008年10月）によると、草津市において自慢できることとして、生活のしやすさ・利便性が56.6%と最上位で、次いで自然の豊かさや風景の美しさがきている。

今後の定住意向では、できれば住みたいとずっと住みたいを合わせて71.6%にも達している。これに加えて、草津市のまちづくりに関する市民意識調査（2010）では、できれば住みたいとずっと住みたいを合わせて75.8%であった。これに対し、大津市(2009)では住みたいと市内転居したいを合わせて73.2%で、守山市(2007)では住みたいと離れることがあっても戻ってきたいを合わせて73.9%となっている。定住意向について近隣他市と比較すると、いずれも概ね7割程度となっているが、本市の割合は同等以上である。このことから、本市に居住する住民の愛着心が他市と比べて格別低いものではないことが伺える。

1. 4 草津の地域資源の整理（提言書）

資源個別についての価値や活用可能性の高低とは無関係に、本市の地域資源についてまとめられている。

表 5-1 草津市における地域資源一覧

①自然環境・社会資本

草津の自然	草津の道路・鉄道・湖岸
・琵琶湖	・JR 琵琶湖線 (草津駅、南草津駅)
・平湖	・JR 草津線
・柳平湖	・名神高速道路
	・新名神高速道路
・旧草津川	・国道 1 号、京滋バイパス
・新草津川	・豆バス
	・湖岸道路
・矢橋の帰帆	
・花蓮の群生	

②歴史的資源・歴史

草津の歴史	歴史的観光施設
・野路小野山製鉄遺跡	・草津宿本陣
・木瓜原遺跡	・草津宿街道交流館
・東海道五十三次の 52 番目の宿場町	・脇本陣
・東海道・中山道の 唯一の合流・分岐点	・立木神社
・追分道標	・芦浦観音寺
・矢橋の浜	・三大神社
・清宗塚	
・遊女梅川の墓	
・山崎宗鑑出生地	

③モノ

地域産品	大学・博物館・商業施設・ 企業
・草津焼	・立命館大学(BKC)
・青花紙	・湖南農業高校
・ホンモロコ	・琵琶湖博物館
・あおばな	・水生植物公園みずの森
・草津メロン	・くさつゆめ風車
・カーネーション	・近鉄百貨店
・みず菜	・A・SQUARE
・山田ねずみ大根	・道の駅草津
・びわこ淡水真珠	・Lty932
・あおばな加工品	・イオンモール草津
・うばがもち	・フェリエ

④文化・サービス資源

文化・サービス施設、ス ポーツ施設	祭り・イベント・著名人
・しが県民芸術創造館	・鮎ずし切りの神事
・市立図書館	・草津宿場まつり
・市民交流プラザ	・サンヤレ踊り
・なごみの郷	・講おどり
・長寿の郷ロクハ荘	・花踊り
・草津アマカホール	・狐おどり
・武道館	・左議長
・野村運動公園	・甘酒まつり
・三ツ池運動公園	・官座
・草津グリーンスタジアム	・ハス祭り
・ふれあい体育館・運動 場	・草津納涼祭り

<ul style="list-style-type: none"> ・蓮加工食品 ・あおばな関連グッズ ・蓮関連グッズ ・たび丸 	<ul style="list-style-type: none"> ・パナソニックホームアプライアンス社 ・ダイキン工業滋賀製作所 ・川重冷熱工業滋賀工場 ・オムロン草津事業所 ・日東電工メンブレン事業部滋賀事業所 ・住友精密工業滋賀工場 ・リチウムエナジージャパン ・日本製箔滋賀工場 ・日清食品中央研究所・安全研究所 ・ニプロ総合研究所・医薬品研究所 ・石原産業中央研究所 ・タカラバイオ草津バイオセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・志津運動公園 ・矢橋帰帆島公園 ・ロクハ公園 ・総合体育館 ・市民体育館 ・えふえむ草津 ・ホテルポストンプラザ草津 ・クサツエストピアホテル ・草津第一ホテル ・アーバンホテル ・ビジネスホテルアサヒ ・ホテル大昌 ・ビジネスホテル HIBARI ・ホテル 21 ・魚虎楼 ・びわこの千松 	<ul style="list-style-type: none"> ・くさつ街あかり・華あかり・夢あかり ・立命館大学学園祭 ・湖南農業高校の農産物・加工食品直売 ・草津宿街道交流館のテーマ展 ・華の草津宿本陣 ・藤まつり ・びわ湖ロードレース ・イナズマロックフェス ・SHIHO(タレント) ・UVERworld(アーティスト) ・和希沙也(タレント) ・松田宣裕(プロ野球選手)
---	--	---	---

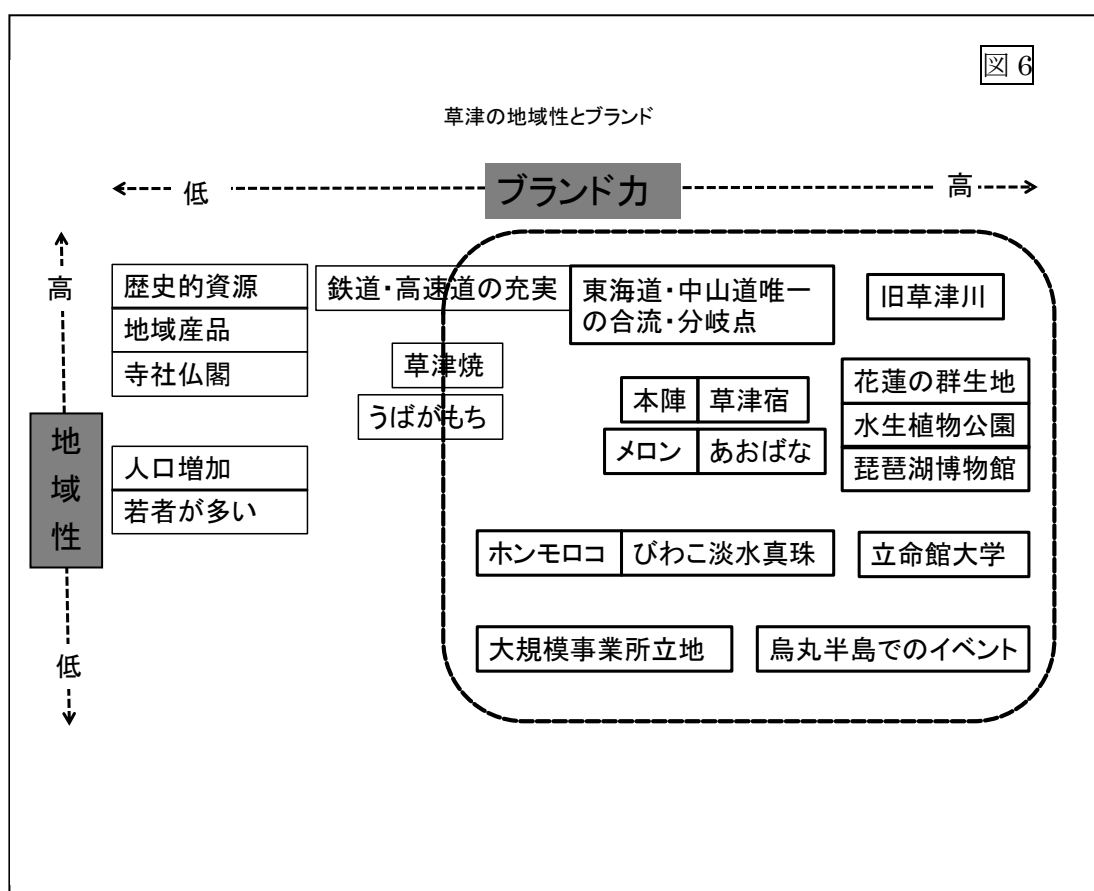
(出典)表 5-1:草津ブランド創設事業検討委員会提言書より作成

1. 5 草津ブランド創設へ向けての方向（提言書）

同提言書では、地域資源からみた草津の強みについて次のように整理している。

- ①草津ブランドを構築するための魅力的な資源が市内に存在する。
- ②「人口増」「大学生（若者）の増加」「大企業・関連企業立地」は成長力の象徴である。
- ③「烏丸半島・琵琶湖畔」の集客力は高い。山手にかけて魅力あるスポットが存在する。
- ④「東海道・中山道」「草津宿（本陣）」に象徴される歴史や、琵琶湖の恵みを活用した生活文化は地域独自の魅力である。

そして、以下の図に示すような草津の地域性とブランド力のある地域資源を組み合わせること、草津ブランドを形成しようとするものである。



また、同提言書では、草津ブランドの概念と目指すべき方向について、次のように整理している。

- ①草津ブランドはモノ・コト・ヒトなど、幅広くとらえ、農産物、加工品、工芸品、歴史・文化、祭事など幅広い概念のなかで、ブランドとしての価値創出に寄与する資源を選別する。
- ②相手に伝わりやすくわかりやすいイメージで発信していく。例えば、「日本一の○○○」といったキーワードを用いる。

さらに同提言書では、草津ブランドの情報発信として、地域資源を結びつけて相乗効果が出るような仕掛けをストーリーに仕立て情報発信すること、また、ブランド創出に寄与する資源のコンビネーション（異分野融合・交流・連携）による、過去から現在、未来につながるようなストーリーをつくること、どのように提言している。

表 5-2 地域資源の時系列的な展開と今後の活用アイデア

過去	現在	未来	資源の特徴	活用アイデア(可能性)
草津川	旧草津川(廃川敷地)	旧草津川(廃川敷地の活用)	<p>・旧草津川は、その川床が周辺の家並みより高いことから天井川と呼ばれ、その特異な形態は江戸時代から知られ、歌川広重の浮世絵他の絵画資料や東海道名所図会などの旅行案内書にもよく描かれている。</p> <p>・しかし、天井川は、洪水の時に堤防が決壊すれば、その水の勢いは強く、大きな水害が発生することになる。</p> <p>このため、琵琶湖から金勝川の合流地点に向けて、新しい川を開削して安全に洪水を流化させる工事が進められてきた。これにより、平成 14 年 6 月には、新しい川に切り替えられ廃川になった。</p>	<p>○全国的にも貴重な廃川跡地を活かしたブランド創出</p> <p>・廃川敷地は、7.4km と極めて長く、日本一長い公園化といったアイデアや全体を桜並木化するなど多様な展開がありうる。</p>
東海道・中山道 唯一の合流・分岐点、宿場町	東海道・中山道 唯一の合流・分岐点、宿場町	東海道・中山道 唯一の合流・分岐点、宿場町	<p>・草津市は東海道と中山道が分岐、合流する交通の要衝、東海道五十三次の 52 番目の草津宿から発展してきた歴史を有する。</p> <p>東海道・中山道が分岐・合流する宿場町は草津が唯一。</p>	<p>○歴史的資源を生かしたブランド創出</p> <p>・東海道・中山道の両方の宿場町(100 か所近く)を集めて、「宿場町サミット」を開催する。</p>
草津宿本陣	草津宿本陣	草津宿本陣	<p>・草津宿のシンボルとしての本陣は、4,800 平方メートルの屋敷地に表門、座敷、台所などの当時の建物がほぼ残され、国の重要文化財である。</p>	<p>これは、双方の街道に縁のある草津で開催することがふさわしい。これにより、「宿場まつり」の地域外への情報発信も高まり、より多くの来訪者が期待できる。</p>
-	宿場まつり	宿場まつり	<p>・宿場町の面影を残す草津宿を中心としたイベント。</p>	

ホンモロコの減少	ホンモロコの養殖	ホンモロコの活用	<p>・コイ科の魚では、最も美味しいとされる。天然ものの漁獲量も減少し、休耕田を利用した養殖がされる。</p>	<p>○ホンモロコの新たな機能を開発しブランド創出</p> <p>・ホンモロコを食用としてだけでなく、観賞・飼育用の資源ととらえ直す。</p> <p>琵琶湖の自然を感じられる「観賞魚」との位置づけを図る。そして、「ホンモロコ育成選手権」と銘打ち、ホンモロコの成長を競い合うイベントを実施し、びわこ・くさつのイメージを全国へ展開する。</p>
染料としてのあおばな	あおばなの機能開発	あおばなの活用	<p>・毎年7.8月に青色の花を咲かせ、この青色の汁が水で消える特性があることから、主に友禅の下描きの染料として栽培され、また青花紙づくりが草津の地場産業で、夏の風物詩となっている。</p>	<p>○染料以外でのあおばなの機能を活用したブランド創出</p> <p>・草津の象徴ともいえるあおばなを他の地域資源とセットにして売り出し、印象付けていく。</p>
連作障害回避による他品目作物	草津メロンの栽培・販売	草津メロンの活用	<p>・北山田地域を中心に1982年から栽培が始まった。</p> <p>産直販売を行っているため、完熟した甘さとしっかりとした果肉が特徴的である。生産量は、28,000ケース(11万個)で、メロンナちゃんによるPR実施。</p>	<p>○割れ物メロン等を活用したブランド創出</p> <p>・2009年に大手コンビニエンスストアから販売された草津メロンを使った杏仁デザートが好評だったことから、加工品販売を拡大する。</p> <p>・収穫するのは、実の部分だけであるため、大量に生じる葉や茎などを利用する。</p>
びわこ淡水真珠養殖発祥の地	淡水真珠養殖が衰退	淡水真珠養殖の復活	<p>・淡水真珠の養殖は、大正時代に平湖で始まり、海外に輸出されるほどであった。近年では、琵琶湖の富栄養化などによる水質悪化が進み、母貝であるイケチョウ貝の成長に影響が生じ、生産量が減少してきた。</p> <p>しかし、その後、水質悪化に強いイケチョウ貝の実験養殖もなされ、草津特産淡水真珠の魅力が見直されつつある。</p>	<p>○淡水真珠の活用性を探る</p> <p>・淡水真珠養殖の母貝となるイケチョウ貝は、琵琶湖の水質を浄化する作用を有しているため、淡水真珠の養殖に協力することは、企業のCSRや個人の環境保護への貢献のシンボルとなりうる。また、国産淡水真珠としての希少価値や琵琶湖のありがたみを感じさせる付加価値もある。</p>

地域資源の時系列的な展開と今後の活用アイデア・続

過去	現在	未来	資源の特徴	活用アイデア(可能性)
立命館大学の立地	立命館大学の地域への定着	立命館大学とのタイアップ	<p>・立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)は、平成6年(1994年)に立地し、現在は、経済学部、経営学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、薬学部、スポーツ健康科学部の7学部と大学院が設置されている。</p> <p>在籍する学生数は、約1万8千人で草津市の人口の1割を超える規模となっている。</p> <p>特色ある教育に加え、スポーツも盛んでアメリカンフットボールチーム「パンサーズ」が学生王者になるなど、草津市に不可欠の存在となっている。</p> <p>また、産学連携活動の取組は全国トップクラスである。</p>	<p>○大学と地域の連携によるブランド創出</p> <p>・大学は若者の集まる場として、様々な活用可能性がある。また、BKCで学んだ学生が、全国や世界に羽ばたくことで、びわこ・くさつの情報発信を担うことに繋がる。さらに、スポーツや産学連携、テクノロジー、高大連携といった大学の多面的な専門性を活用することが、びわこ・くさつのイメージ形成に資する。加えて、大学内には、「木瓜原遺跡」が保存されており、当時の窯跡も残されており、この地が古代より文化・文明の栄えた地であることを示している。良質の焼物用の土が残されている。こうした風土が現在の草津焼につながっている。</p>
滋賀県立琵琶湖博物館	烏丸半島最大の集客施設	同博物館の集客力の活用	<p>・琵琶湖博物館は、湖をテーマにした博物館としては、国内最大規模を誇る。</p> <p>・年間来場者数は、40万人を超え、草津市及び烏丸半島における集客拠点となっている。琵琶湖博物館は、学術的にも観光上も草津市の重要な資源である。</p>	<p>○博物館・植物公園の魅力を活かしたブランド創出</p> <p>・琵琶湖博物館には、年間40万人もの見学者が訪れており、これだけの入込客を市内に誘導できれば、市内に大きな経済効果をもたらす。現状では、湖畔と市内が分断され、ルート化されていない。湖畔の観光スポットと、市内のスポットを回るルートの開発が必要である。</p> <p>・琵琶湖博物館やみずの森は、環境学習スポットでもあるため、未利用地の存在する烏丸半島に環境学習に資する宿泊体験施設を整備</p>
草津市立水生植物公園みずの森の設置	ハスの愛好家によるリピーターが存在	植物公園の集客力の活用	<p>・みずの森は、花蓮の群生地に面している。琵琶湖にかかわる各種水生植物のほか、世界最のスイレン・ギガンテアや国内では唯一花を咲かせる沙羅双樹など希少な植物を見ることができる。</p>	

-	烏丸半島の利活用 (屋外大規模イベントの開催、未利用地の活用検討)	烏丸半島の集客エリア化 (イベント実施、環境学習エリアの整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・烏丸半島の野外空間を活用したイベントが開催されている。イナズマロックフェス 2009 は、滋賀県出身のアーティスト西川貴教氏のプロデュースによって開催された滋賀県内初の大型野外ロックフェスティバルである。会場となった烏丸半島には、県内外から3万人を超える観客が集まった。会場では「滋賀観光物産フェア」が同時に開催され、地域を全国にPRする格好の機会となった。 	<p>することも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・烏丸半島は、広大な野外空間を利用したイベント会場として活用が可能である。年間を通して様々なイベントを企画し、集客できれば、琵琶湖に近く、草津のイメージを発信するのにふさわしい場所として機能する。
花蓮の群生	花蓮の群生	花蓮の群生	<ul style="list-style-type: none"> ・烏丸半島周辺には約13haにも及ぶわが国有数のハスの群生地がある。夏の盛りには、淡いピンク色の花が一面に咲き乱れ、その光景は壮観である。国内有数また琵琶湖畔最大のハスの群生地であり、また、琵琶湖畔におけるハスを鑑賞するのに最高のスポットである。 	
大規模事業所立地	環境配慮の時代となり、環境にやさしい製品を製造する事業所が増加	環境負荷を低減する製造拠点のイメージを活用	<ul style="list-style-type: none"> ・草津市内には、国内エアコンメーカー上位2社(パナソニック、ダイキン工業)のエアコン工場が立地している。エアコンは、近年、省電力や空気清浄などの機能向上が著しく、環境にやさしい製品開発が続けられている。環境面においても、大きな意味をもっている。 ・その他、日東電工、ニチコンなどの大手企業も環境関連製品の開発や、普段の企業活動における環境負荷低減に熱心に取り組んでいる。 <p>こうした世界でもトップクラスの環境先進技術を持つ企業とその取引先企業が集積する草津市は、エコ技術・企業が集積する地域である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○染料以外でのあおばなの機能を活用したブランド創出 ・草津の象徴ともいえるあおばなを他の地域資源とセットにして売り出し、印象付けていく。

(出典)表 5-2:草津ブランド創設事業検討委員会提言書より